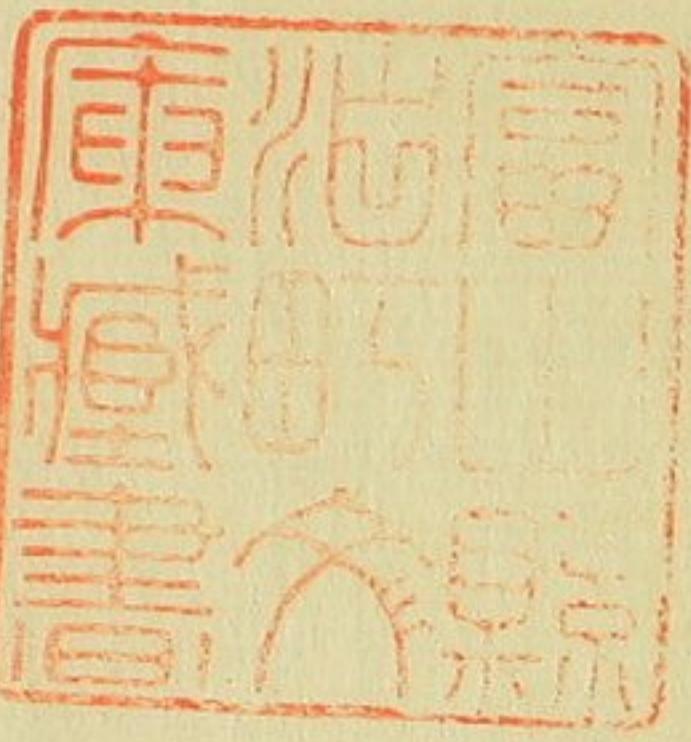


5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

首書
陳氏詩語
卷之三





三

○細巻名以哥号^{アラシ}也並の横豎之事河海花鳥よりとては巻ハ筆本巻の後^{アフタ}きセ也以立の並
なづくべ惣而並の事史記の本記以外より列傳と立^{アリ}よたず^{アリ}くらへき也
○花並一並の事ハ先横と從^{アリ}てやまとうか匱ね葉のや近れ^{アリ}但此や近^{アリ}よ^{アリ}くも^{アリ}て豎^{アリ}る事
あ^{アリ}き也たゞハ一巻より^{アリ}き事をまと^{アリ}くら^{アリ}て並巻^{アリ}りせう^{アリ}と^{アリ}ス一巻の中より横豎互
葉^{アリ}るわ^{アリ}未^{アリ}稿花卷ハ幼ハ若紫同時の事^{アリ}と^{アリ}も^{アリ}少^{アリ}也空疎
巻ハ豎^{アリ}の並^{アリ}也哥^{アラシ}と从^{アリ}て名^{アリ}セ^{アリ}

わうせぬるも 花是、篠木巻の終れ付てまし
うそひまく川の宿よとまうむる夜のゆ也

我はくべよ 幸原氏君好色のトアミテ
万水小君よヨモトヤシモテ

よよくまわてももきのとめくい

うんづくてうとせとねりひる

われが、もぐりて、さくらぬまく
うきとよとちうりめんハせよかうてとも
むぎわきやう

うとうひなづれまどのゆ

おうとうとく花是ハ君よ也次の日よハ君ウ

空麿君よ似てひまうとア

小君

原刊

懲

○ちいさきかと或掛空邸ハやひときゆすの
算帝本巻スモアシテ
○アリシテ細小居うありこま空邸のキミト
のきとひよく似タリシト
○たゞトノ万水尋トノ心也
○ちやふ巴掛あうきもくらも空邸のたり
スハアラクナリトナリノモ心也

といひのやうに、ゆきのやうにうきとおとと、纏は
已扱小君の念比よりかせられとて出ぬ夜の旅也

よめが内へとおはしてわづ
毛のやうものをもつてひます。
あくまでもうござり
お君心

心つきうりとハ或扱空蛭のあざアアんうきとあらま
くじらともそそいやあらむとと

○小君よ細小君となひて
○河輶哉タニレ 懼哉日上日本紀
或移空蝶をアラマエリシタスヒト
セキテモハ我心もあきふと

○たゞれど河 槍計タケル
或方便タメ
○或歎のひしひとツハシムの意
○うそふて細コラハヤカニトモテモテ
とくらとよてにんぐくきト一領狀ト
巴歎小君心よ空野のよきれぬヨラウヨミと

○まちこころは或秋日をつけてか心也

ものと國立アリス 田家アリス

○きのゑん國より
田家あり一苗主也トシキわと
也也巴抜まハ暫時在京也国守されハ在國りテし
○女ともラ河ともラハ共也万葉思共^{トシ}トあり友の心こ
つのとやうう或母女ともラヤウラスのとやううタ
や尺と上下にのるもラ河ニササ不ね多アリテ
○タや尺の河方葉タヤニの通トヒドシ月あらて
くれエリセニラのあらをアラン
○ヨリ車にて万水小君ラ車にほ兵どりセモアモミ
○シムセナシラモシト細ほ兵の用心也

○さひもせにか一万余ひるんとハだかせとさう
あつてもえにか一とまうまきよのゆ也

よのわへゆきと、或抄中川の宿の番の者うと小
君なさうされハ孔儀ゆきとせひハほ氏のゆきと
れと、追從ツイシヨウ又祝多のよ地也

おのれのまへる万水是ハシムトニテ

。うちわふうと 佃小君うへぢゆどう、ハアハ也
へスドミシカ、やとと女房達のつて
。かくあきよ 細か君うつて
或秋のとて如此暑き時分よかしとれやくちうと

○西の方 佃 何とみうじ玉も朝日の歌也 室町の
あり子也 い家の西の方よあゝてともうつや
○碁石 河博物志云 競造園碁石 一云 爛造也
晋中直^ハ書云 園碁石 競^ハ年々从教愚子也

○
レ入所^ス也 佃小清^ス入^ス妻戸也
万承^ス入^ス也 不^ス一^スト^スハ^スレ^スシハ^スル^ス也
ト^スト^スト^ス

やまとひやうし。ひぐれのまゝ
よ。さてそりて。ほきとへんを
のととのうとわ。たゞ
のまくとくわ。ごめらわ
さりとくわ。あがくわ
とくわ。おちくわ。とく
がじくわ。のむかのほを
とく。秦え。せうとく。
ひしゆ。とく。とく。
て。かとく。あるとく。
のとく。よつとく。
いとく。はくまく。

空蝉
て西の方へ入る

卷之三

卷三

○きぢやうのと 巴林ニ季ようそく 衣裳とせし
屏風のとをちよとすりゆき勿絆うとせの油断
のよく也

○火ちゝリ或拂基スルシ火ヒチ也

。さあやの花せ房の装束、五月五日より、ひと
きまとさうひとくらをひねり、さうのころやせ時、
まにひとくらをこゝ、と、ハシナラウシのゆゑにさ紫
よすめられし河海よ紅の毛こきとあらさきとす
いぐにてわく。

そつきをく、細畳とまつよ、手あらはうき
ととつきやふひき、くと用意、くわゆ
。今ひきへ細引もの義也、たらこの方トリさん
が、小東じきうきよ、けうきととん半

○不思議
細空野の用意ねど、行也

○白川の萬水是ハ夏の裝束うすて
○さわひの弄紅花と青花と三藍
セアモトヨシ也一註同一名ニアヒトヤス
トモリ同事也已批上赤下青也
○アヒトヨ万水の事もあらう
○アヒトヨ河跨腰也
○アヒトヨ細河ハ傍側立花スハ飽足也
アヒトヨアヒトヨ四とニ共傍側立花スハ傍
立花人の事也(此ニ取引ふ事也)
アヒトヨ万水ノノホ肥_{アヒトヨ}
アヒトヨ弄サ高キアヒトヨ

○ゆきとくは
花のうららか
人やひよし貞也

○さうそ 弄さうそもとの字濁板
ええ霜のうそ同心乞河下場勘文
わちまく細やかにやまくこ或被傳字也

むらさきの細軟ひとハ一浪もるせむせむと
も思ひ

のうらうらと 弄人の性をくわうけ也
細へへんきよト、ハ用意とくやせばへばく
うらうらと あらへどくうせをくわくも

のとまきよハ巴掛一ノヒナ廉ハアミタ
スニシトカシテスズク
キモチ細清てトシ也 河圍其石の結也又闇

河早連のりくわさばうき旅也
のりのへ細え軽こ度あの大奥うそ花鳥之儀不審
花は時源氏君のういもとへ東の妻戸トア西さすよ元
やアモテア奴屋の柱スカミカツヘハ空姫君今独ハ
东(ひがし)テ故(ゆゑ)ナリタマシキ西の房方ヒサアホトア
ミルハキヤの柱(はしら)アヌカツハ西(にしき)アレハシラム
ナシタモ西ハタクの方(ほう)アレハシタモ方(ほう)トシテ西の
人(ひと)ハタク西の房方(ほう)アヌカツレトアヌカツレハ
シトロの方(ほう)ヒキテアヌカツレ

而去一也

河海花鳥委 河雜氣伊陽

そりもやなトヤ君をもとや花六花集古
うとて出せよよゆれいきのねはた八右九中十六
とて亦三あとい

やうと万水を駆へ朝の氣とれども
或が空蝶ハラシトシテ
たゞく細空蝶のありさまと弄同

細空蛭のありとも弄同
万水一より字うて

めもく／＼わろ細くふろとハ睛也ひにひ
た／＼スハ目のと左あきをな／＼は鼻の並も
ももと細や／＼うきととハ鼻のる／＼
ぬ／＼也并同巴歛りひれてハねづちゆゑ
むづちゆゑ

○ひくは、細空蟬ハ形ハよの方よりそれとも進退
トシ可也。よきてトシアリトモ是又へのぞく也

おひまくらへ花西豈方ひまくアラシトモハま
タタキテヤウ也

花弄同

○不うふ巴被困きぬれ
或被随意よがうる

おもむれハ已批ハれどもトモトモトニ
心也或批賦也

毛色もやへはうむ
あづき花あくまうの心れほきとえ
向ひかの處の也アヒシムヒカラ初見山

まことに
あやめの万水は民好色の方へ(實きのみ心と)

○行心之久
万水千山只等闲

巴秋行と雖アラヤのためハト
行ウシ之或歎俗ニセキシテコトヒ心と同
小君出ウシ細小君ヲ出ウシタクノ事ハ金多キ也

細君トシ戸口ノ在りひづるよ
ちて小君アソモハシ
細君ト思之或掛候事
ナリ不吉ウタクヲシテル事

○おひさまかく細小君うむ朝もみのあれ布とま
花客人とま

花室　　一
モスヒヤ　　伊藤氏の物

伊藤氏の印

蒙古文

或秋之氣也。又謂之秋風。

卷之三

アヘタナリ。アヘタナリ。

細小君引は人の足で立つてゐる

トモアリハタマシテ
トモアリハタマシテ

○おもむきつき 佃屋のむかでうきよと
たのしきと

الله رب العالمين

或
萬
小
君
た
く
と
も
せ
ば
う
れ
く
た
か
く
そ
そ
め
の
中
へ

えりはるのとあわせ
うそどおのまことじふのよき

おちまわる巴抄小君りゆうひあはくしよみ
な屋内とえをにやうすうじてとく

アラタニシテモトコトモアハシ

○うちうきうめく或掛せ上方ともの退出もうまき
きのうよくともとえ

卷之三

○君主もハ御内君と世間連の事
○
○

萬水千山只等闲
只等闲

ほの
心

ほしもつゝよの佃小君と今とよきわやと思ふ
或秋空蚊の心實さればひゐるをうなづかゆふ

卷之三

蒙古文

蒙古文書

蒙古文

よつて
ヤシと
の如
きに
あつて

卷之三

○夜えうるゝれ或紙、郭との糸代テモテアヌ
御うとハセシシトヨガ君トモアセトモ御
トテ夜えうるコレヌ対也アリトモアムモ
トニヤセル也

○こゝへハ河今度 日本紀ラクモトウノ日記
ノモカ此書之假名書のこも也 細小君入也

○五十三口ニテ水小君うさまく

れをもとを河内守へよどりて戸へ
まへるもんと君よひゆゑやと
おもひいろきて細屏風うそて次の御よみぐら
或秋小君う源氏と入まへためよおひまくと

○アシテのうつる 細小君とあきそひてつらせ房達
花戸のをとうひそもひりつう童也
○えきこえ或抑せ房達のねづか一也

すま細やかな約ハ静よ多ひやううふうそ
ほの約よやをなき出でとわうは巻此約多一

○ひよろ細ひよとねがつうくらぬほのゆうち
サヤカひやまゆき也 或歎空蝶の心とあらざる
すうとあそむむきくともうへきてひよとゆきこ
えの心

○やうるるく細ほほ氏の傳ようもんへもつま
くよじゆりさまのひらへとくまと
○おひさと細室蛭のひしやほほ氏のうき絶れ
ととくことハシトモサモウタケキサト

○まやまや 万水千山の夜をとどける
○ゆきくら 何拾遺君のうめのくら冬のよへ
くわくわくわくわくわくわく
ひくひくひくひくひくひく

春の本のうちを問謙徳公集よりはさりひりへ
なづくよしもて春の本のうちとひきき
古今の事もひととわどけむとくのとみる

無暇也。下水复多春之水也。

○或按正義之說

○とくにハ細部の事也
或批用意をうきこま

卷之三

卷之三

いとらをすすり万水ル帳のさり重ひ
きと甚うひとさり

○テアトロキ 盂 カトロキトモスノボ

のあざまへたむとて或様、空蝶はほんとあざま

مکالمہ میں اسی سلسلہ کا ایک حصہ تھا۔

جَنْدِيَةٌ مُّكَبَّلَةٌ

卷之三

卷之三

蒙古文

意をこなす。細室せんじゅうじゆく

ゆく人あり。田空蛭より下トと云ふ
人トスヒ万水人トスホトナリ也。と
云ハ空蛭云々トス。トス。トス。トス。
トス。トス。トス。トス。トス。トス。

○やのくと細是りと我ガとシムとをもん
たノハシトタクのやうにて空蛭をもんと
君あそハラテドコモトコモト

○とこすて万水空蛭の下ノイキムと
或秋室蛭ハアリカムヤアリカムの下ノイ
モコムト

○み下ノガフリ空蛭も一時アヒトコモト
ラバトコモト不ヤモト

○ヨウキリ 細まよ地也

○ナツカニテ 細あその糸テミキ

○荷ハラケ万水おの糸れ進退行あまなまき

○あくま 盆トミミカセ也
細き世をもん人の傍よハアヌミアヌミカセ

○義とちヤと細ほ氏の山たうハ我とちヤ逃て
ススミと移るの糸よ空蛭よ四三のあうてハキ
トキモシテアリエカラヘテ空蛭のる外よ
行あき不と不ヤクルと故ニ

○あづき人 細空蛭也

○あづきの細トひくの山方蟲もおの糸の辺
トシヒナヒ

○たゞん人ハ細世ヨリ人ハ便虫のての筋モ
さハ有キトとたゞん人ハきゆと
万水也と分別もシカヘキハ
○さテモテアリ万水カリシヤアリカムの辺
巴林ほ氏の山かセヨモテアリエカルモト
ナムセ
○ヨウヒハ或秋射るの糸ヒトハラキタルモト
トシヒナヒ

うき人細室野也

○ソシコヨ或缺ニトシのアリコマト空蛭のスル
○ウムアラハコ孟室蛭のヒトキビの名也

じあやうに佃えのとくにそんねんむせ
け人の佃えのとくにそんねんむせ

人をもて細ほ民の事をめがよのみ猶也

○
えまくまく細ひの我と被ふとせんと
或珍ほん氏一世をつづれど
ひきうるも細ほん氏の我と被ふとせんと
直、あと、のゆき巴歎きもくうりをあう
のまくよとおほての卷を

ノアモウタタキ

ノアモウタタキ 細川玉毛をひねる事

の様と不思議な事或は心をもつて見たりたまう事

のアモウタタキ也秋アラウトとあくう也

アヘタタミ或妙小君をもはててゐる事

くとも、或妙小君アモレモアラヒトエチタタミ

のアモウタタキ也秋君魚乞はれと具合まで出る故也

細ナリタタキニ或妙アリテトドシ

のアモウタタキ 盆 外の方(外也)

のアモウタタキ 細小君アリニカラシモハナリトモア

モモウタタキ也秋アリトヨモハナリトモア

アモウタタキ万水アタヤアトモタタキの改赤不

えれもくハ細小君の河也たゞひて又民部のれ

りと也と自同自答もく也花島よハ女唄のたゞ

アモウタタキ也

のアモウタタキ河侍者白氏文集の許新集記社仙属云從渠

渠ハ池也大鏡云アリヨリシヤとのゆゑとアモウタ

モウタタキ也有ちるニ花たとひ居キモウタ

アモウタタキ巴極アヤハタキノせいよアモウタ

モウタタキ也或妙地アリテの詳をもす

アモウタタキ也常々人よアリテモアモウタ

モウタタキ也細小君アリハアモウタタキ也

アモウタタキ也或妙小君アリハアモウタタキ也

アモウタタキ也萬水浦民君のアリモアモウタタキ也

アモウタタキ也妙小君アリハアモウタタキ也

アモウタタキ也細ほれ立つれ也

アモウタタキ也或妙小君アリハアモウタタキ也

アモウタタキ也萬水浦民君のアリモアモウタタキ也

アモウタタキ也妙小君アリハアモウタタキ也

アモウタタキ也細ほれ立つれ也

アモウタタキ也萬水浦民君のアリモアモウタタキ也

アモウタタキ也妙小君アリハアモウタタキ也

アモウタタキ也萬水浦民君のアリモアモウタタキ也

○とよかと或母は老女腹痛のうとき

○あゆ行く或秋寺やる類性へてあむと
○人坐あつて或秋客へりぬぐうとす

○ゆづるも或母は老女腹痛のうとき

○うとえくまく或母媒まく媒モ一とシ

○くわせそ細は其アヘシヨコトナムハ
○ソクヒツクツカシムイタセ

○ハミシン或母タモテアシテシトモモ

○シテ、細ほ氏のじまきよ出だく

○がくうろあうき或母済氏のふを地うき

○よくたリ巴狹ラバアレキキニシテ

○或母大人の手ノレキヒナヤシハアヤシム

○品車のたゞ万水モアハシテスニキヨリ此貴院

○たゞかうギリヒト一万水小君うなきうみうて本

○の夜の時宜さくちうとて見うな見

○よくたリ巴狹ラバアレキキニシテ

○或母大人の手ノレキヒナヤシハアヤシム

○品車のたゞ万水モアハシテスニキヨリ此貴院

○たゞかうギリヒト一万水小君うなきうみうて本

○の夜の時宜さくちうとて見うな見

○よくたリ巴狹ラバアレキキニシテ

○或母大人の手ノレキヒナヤシハアヤシム

○品車のたゞ万水モアハシテスニキヨリ此貴院

○たゞかうギリヒト一万水小君うなきうみうて本

○まづひめつらおとひしわ
○とやでいとううのをばくも
○よけつらとんびあくとど
○くくぶとくまうのうくとど

○うとえくまく
○くわせそ細は其アヘシヨコトナムハ
○ソクヒツクツカシムイタセ

○ハミシン或母タモテアシテシトモモ

○シテ、細ほ氏のじまきよ出だく

○がくうろあうき或母済氏のふを地うき

○よくたリ巴狹ラバアレキキニシテ

○或母大人の手ノレキヒナヤシハアヤシム

○品車のたゞ万水モアハシテスニキヨリ此貴院

○たゞかうギリヒト一万水小君うなきうみうて本

○の夜の時宜さくちうとて見うな見

○よくたリ巴狹ラバアレキキニシテ

○或母大人の手ノレキヒナヤシハアヤシム

○品車のたゞ万水モアハシテスニキヨリ此貴院

○たゞかうギリヒト一万水小君うなきうみうて本

○の夜の時宜さくちうとて見うな見

○よくたリ巴狹ラバアレキキニシテ

○或母大人の手ノレキヒナヤシハアヤシム

○品車のたゞ万水モアハシテスニキヨリ此貴院

○たゞかうギリヒト一万水小君うなきうみうて本

○まづひめつらおとひしわ
○とやでいとううのをばくも
○よけつらとんびあくとど
○くくぶとくまうのうくとど

○うとえくまく
○くわせそ細は其アヘシヨコトナムハ
○ソクヒツクツカシムイタセ

○ハミシン或母タモテアシテシトモモ

○シテ、細ほ氏のじまきよ出だく

○がくうろあうき或母済氏のふを地うき

○よくたリ巴狹ラバアレキキニシテ

○或母大人の手ノレキヒナヤシハアヤシム

○品車のたゞ万水モアハシテスニキヨリ此貴院

○たゞかうギリヒト一万水小君うなきうみうて本

○の夜の時宜さくちうとて見うな見

○よくたリ巴狹ラバアレキキニシテ

○或母大人の手ノレキヒナヤシハアヤシム

○品車のたゞ万水モアハシテスニキヨリ此貴院

○たゞかうギリヒト一万水小君うなきうみうて本

○まづひめつらおとひしわ
○とやでいとううのをばくも
○よけつらとんびあくとど
○くくぶとくまうのうくとど

○さとふうて或歎小君とまうるうといもなう
うふをはうてアマウセ
○せなゆのまに或歎臣氏のきよ宣姫のことをもあを
うくねうゆくよもうふくとく
何うううやせきのあまのれ表壁うかくやく
玲鹿山つせのあまのれ表壁うかくやく
是ハ後撰エ伊尹あれ其のまふきをきてうよア
ハトシトトク
○の君を或歎朝の氣と宣姫のともゑとく
うそ我くくうくとく
之モハ何古今むちうへとうきのをう
せきあ、りしきふ
のすまうて或歎わゆよけいえとかうりや

の小君のこゝアリ或抄射營がのほあアリとや君のわアリ
細がくの義の心こゝ小君してほ氏のまうかひにヒ
来うとうせおひ／＼のアリとモレントモ

或抄ほ氏のに朝の文より其に其に信よりを
わりりとをもれり心とす
〇つをうきへ 佃空蛭也
〇もうひとと 已抄宜蛭の心とすを
〇あさとよ一 万水浅くはあらむことハアシニモウ
アミタよにうひひうきし 河をさへてうるおひを
瓦葉はのうと深衣あきこよやかくとうるお
〇ありしかば何古アリヤリともわうかやせ宇とありし
かの我身とぞと佃空蛭の心にけ始終はす
心ありえハアシよたやくは心アシアリ我身もとう
きまくかうて有へてハヒ鬼と負意のひゆ
トメテアシハれぬ身のそりと

。うちのう 空蝦也 水也 也或波也 也
もよどひあうて あひともすよほんのひあ
のひくとひあうて あひともすよほんのひあ
めうへ 巴波空蝦の世 はるもすひうへ あひふ
タとスリ也 且トク 卷の名トモ
河 い う伊勢集 わう 始事古今アターリ伊勢物語
え始てトモアラヤニキテ万葉三の数多あウモウ
山モトアラヤのあホ也又我上よ高ミモウタカ
の山ヘテ下向ヒ赤人のあ也ケタフアラニハ度
星のとヨウ舟のひのちうくのうよ一同也

隱蓑物語云たきゆのめう、毎人のわざとあね年
きわくちうみかはせと古今の花うさものうよ
五文字の外ハナソも入げ物語の五うそぎと別る
二道のうそと上句奇官女ゆの集より如咲之例
勝計とつと

